種名	モ　ク　ズ　ガ　ニ Eriocbeir japonicus
分類	エビ目イワガニ科
俗称	カワガニ、ケガニ、ズガニ
形態的な特徴	甲幅約60mm。はさみの掌部の外面、前節の外面および内面の一部、さらに両指基部外面にふさふさした長い軟毛が密生する。腕節の内側の隅には1本の棘がある。歩脚は各節ともやや扁平で、長節の前縁末端近くに1本の棘状歯がある。腕節と前節の前縁と後縁には黒色の短毛があり、長い丈夫な毛が混生している。甲は丸みのある四角形で後方に開いている。額縁は波状に張り出しており、眼窩上縁との区別は不明瞭。 体色は暗褐色、水底の泥の色に似た保護色をしている。大きなはさみには褐色の毛が密生していて、まるで両手に防寒用の毛深いマフをはめているように見えることから、英国では手袋ガニ(Mitten crab)とよんでいる。
分布	日本全土に分布する。
繁殖行動	繁殖期:交尾・産卵のため海に下る時期は9～10月。抱卵期は10月中旬～翌年6月中旬(長崎県五島)。繁殖場所:河口域から海の沖合。発生:ゾエア幼生で孵出し、数回の脱皮ののち、メガロッパ幼生を経て稚ガニとなる。
生息場所	河川の上流域から河口域まで生息している。また、海にすみつくものもいる。モクズガニは孵化してから4～5年目に性的に成熟する。その頃雄と雌は川を下り始め、河口に達する。河口域で交尾を行い、受精卵を持った雌は河口から沖合に出て産卵する。その時期は毎年夏の終わりから秋にかけてである。抱卵した雌は海で生活し、翌春、卵が成熟すると再び河口に戻る。 産み放たれたゾエア幼生は、秋頃メガロッパ幼生になって川を上り始める。メガロッパは脱皮して稚ガニとなり、さらに中流から上流に上っていく。産卵を終了したすべてのカニが再び川を溯るわけでなく、海にとどまるものもいる。
食性	動物質を中心とした雑食性で、カワニナなどの貝や魚の死骸などを好んで食べる。
生息環境への配慮事項	繁殖のために河川と海とを往復するので、移動がスムースに行なわれるように、河川の横断工作物には適切な魚道等を設置する必要がある。甲殻類を対象とした魚道タイプは確立されていないが、現状では通常の魚道に、甲殻類の足場となる太いロープを併設している例が多い。
	引用文献：川の生物図典を改変